

# 高校古文 単語100＋練習問題10

形容詞50・動詞30・副詞名詞連語20＋古典10題（解答付き）

## 【古文単語100語一覧】

### 形容詞・形容動詞50語

古文単語	品詞	意味	例文
いと	副	とても／たいそう	いとをかし。（とてもおもむきがある）
いみじ	形	ひどい／すばらしい	いみじき美しさ。（たいそうな美しさ）
うつくし	形	かわいらしい	三寸ばかりなる人、いとうつくしうてあたり。（小さな人がとてもかわいらしく座っていた）
うるはし	形	きちんとしている／立派だ	うるはしき装束。（きちんとした衣装）
かなし	形	いとおしい／心がしみる	親のかなしき子。（親のいとおしい子）
をかし	形	趣がある／興味深い	春は曙、やうやう白くなりゆく山ぎは少しあかりて、をかし。
あはれなり	形動	しみじみとした風情がある	ものあはれを知る。（しみじみとした情趣を知る）
つきづきし	形	似つかわしい／ふさわしい	雪降りたるはつきづきし。（雪が降っているのは似合っている）
すさまじ	形	興ざめだ／殺風景だ	昼ほゆる犬、春の網代、五月の紅梅、すさまじきもの。
たへがたし	形	耐えがたい	暑さたへがたし。（暑さに耐えられない）
ゆかし	形	見たい／聞きたい／知りたい	そのありさまゆかしくて。（その様子を見たくて）
なつかし	形	心ひかれる／親しみがある	なつかしき声。（心ひかれる声）
まめなり	形動	誠実だ／きまじめだ	まめなる人。（誠実な人）
つれなし	形	冷淡だ／さりげない	つれなき返事。（冷淡な返事）
やうやう	副	だんだん／次第に	やうやう白くなりゆく山ぎは。（だんだん白くなっていく山際）
ねたし	形	しゃくだ／うらやましい	ねたきこと。（しゃくにさわること）
はかなし	形	とりとめない／頼りない	はかなき夢。（とりとめない夢）
うし	形	つらい／嫌だ	世のうきこと。（世の中のつらいこと）
くちをし	形	残念だ／悔しい	くちをしき別れ。（残念な別れ）
かしこし	形	恐れ多い／優れている	かしこき帝。（恐れ多い帝）
やさし	形	恥ずかしい／優美だ	やさしき所作。（優美な動作）
つれづれなり	形動	退屈だ／所在ない	つれづれなるままに、日暮らし、硯に向かひて。
すずろなり	形動	むやみだ／無関係だ	すずろに涙落つ。（むやみに涙が落ちる）
げに	副	本当に／なるほど	げに、いとなまめかし。（本当にとても優美だ）
なべて	副	すべて／一般に	なべての人。（普通の人）
ことに	副	特に／格別に	ことに優れたり。（特に優れている）
うたて	副	嫌な気がする	うたてあり。（嫌な感じがする）
ありがたし	形	めったにない／珍しい	ありがたきもの。（めったにないもの）
むつかし	形	不快だ／うっとうしい	むつかしげなる山。（うっとうしい感じの山）
うとし	形	疎遠だ／親しくない	うとくなりけり。（疎遠になってしまった）
ねんごろなり	形動	丁寧だ／親しい	ねんごろに語らふ。（親しく語り合う）
のどけし	形	穏やかだ／のどかだ	のどけき春の日。（穏やかな春の日）
やむごとなし	形	高貴だ／重要だ	やむごとなき人。（高貴な人）
らうたし	形	いとおしい／かわいい	らうたく覚ゆ。（いとおしく感じる）

ゆゆし	形	不吉だ／甚だしい	ゆゆしき大事。(重大な出来事)
をこなり	形動	馬鹿げている／愚かだ	をこなる振る舞ひ。(愚かな振る舞い)
こころづきなし	形	気に入らない	こころづきなきさま。(気に入らない様子)
こころもとなし	形	じれったい／不安だ	便りなくこころもとなし。(便りがなくじれったい)
こころにくし	形	奥ゆかしい／心ひかれる	こころにくきさま。(奥ゆかしい様子)
こころことなり	形動	格別だ／特別だ	こころことなる花。(格別な花)
みやびやかなり	形動	上品だ／優雅だ	みやびやかなる人。(上品な人)
すげなし	形	そっけない／愛想がない	すげなき返事。(そっけない返事)
けし	形	異様だ／変だ	けしき。(異様な様子)
ねぶたし	形	眠い	ねぶたきまで。(眠くなるほど)
やつれたり	動	質素だ／みすぼらしい	やつれたる姿。(質素な姿)
ところせし	形	窮屈だ／盛大だ	ところせきまで。(盛大なほど)
ことごとし	形	仰々しい／大げさだ	ことごとしき様。(大げさな様子)
うしろやすし	形	安心だ	うしろやすき人。(安心できる人)
うしろめたし	形	気がかりだ／不安だ	うしろめたく思ふ。(気がかりに思う)
らうがはし	形	騒がしい／散らかっている	らうがはしきさま。(騒がしい様子)

## 動詞30語

古文単語	品詞	意味	例文
おどろく	動	目を覚ます／気づく	夜半におどろきて。(夜中に目を覚まして)
ありく	動	歩き回る／行く	山辺をありく。(山辺を歩き回る)
おはす	動	いらっしゃる	君おはせばや。(君がいらっしゃればよかった)
のたまふ	動	おっしゃる	帝のたまはく。(帝がおっしゃるには)
たまふ	動	与える／～なさる	ものたまふ。(ものを与える)
まうす	動	申し上げる	とまうす。(と申し上げる)
はべり	動	ございます／お仕える	雲はべり。(雲がございます)
さぶらふ	動	お仕える／ございます	御前にさぶらふ。(御前にお仕える)
たまはる	動	いただく	御物たまはる。(物をいただく)
たてまつる	動	差し上げる／お～申し上げる	御文たてまつる。(お手紙を差し上げる)
うけたまはる	動	承る／お聞きする	仰せうけたまはる。(仰せを承る)
見ゆ	動	見える／思われる／会う	雪見ゆ。(雪が見える)
念ず	動	祈る／我慢する	心に念じて。(心の中で祈って)
はかる	動	計画する／だます	事をはかる。(計画する)
しる	動	治める／知る	国をしる。(国を治める)
かたらふ	動	語り合う／親しくする	夜もすがらかたらふ。(一晩中語り合う)
やつる	動	やつれる／姿を変える	やつれて見ゆ。(やつれて見える)
わぶ	動	つらく思う／落ちぶれる	世をわぶ。(世の中をつらく思う)
わづらふ	動	病気になる／苦労する	重くわづらふ。(重く病気になる)
おこる	動	病気になる／起きる	病おこる。(病気になる)
つかうまつる	動	お仕える／し申し上げる	つかうまつる人。(お仕える人)
うす	動	消える／死ぬ	光うす。(光が消える)
かしづく	動	大切に育てる／世話する	ひめ君をかしづく。(姫君を大切に育てる)
もてなす	動	待遇する／取り計らう	客をもてなす。(客をもてなす)
かこつ	動	嘆く／愚痴を言う	身をかこつ。(身を嘆く)
なやむ	動	病気で苦しむ	重くなやむ。(重く苦しむ)
いそぐ	動	急ぐ／準備する	出立をいそぐ。(出発を急ぐ)
おぼゆ	動	思われる／感じられる	悲しくおぼゆ。(悲しく思われる)
ながむ	動	物思いに沈む／眺める	月をながむ。(月を眺める)
ふす	動	横になる／寝る	夜ふす。(夜寝る)

## 副詞・名詞・連語20語

古文単語	品詞	意味	例文
やがて	副	そのまま／すぐに	やがて返事す。(すぐに返事する)
すなはち	副	すぐに／取りもなおさず	すなはち泣く。(すぐに泣く)
つひに	副	ついに／結局	つひに言はず。(ついに言わない)
なほ	副	やはり／さらに	なほ来。(やはり来る)
しばし	副	しばらく	しばし待ち給へ。(しばらく待ってください)
かく	副	このように	かくありけり。(このようであった)
さらに	副	決して～ない(呼応)	さらに知らず。(決して知らない)

つゆ	副	少しも～ない（呼応）	つゆおぼえず。（少しも覚えていない）
え	副	～できない（不可能）	え行かず。（行けない）
をさをさ	副	ほとんど～ない（呼応）	をさをさを来ず。（ほとんど来ない）
な	副	～するな（禁止）	な行きそ。（行くな）
いかで	副	どうして／なんとかして	いかで知らむ。（どうして知ろうか）
をり	名	折・時	そのをり。（その時）
ためし	名	前例	ためし少なし。（前例が少ない）
おもむき	名	趣旨／様子	おもむきあり。（趣がある）
こころざし	名	意志／愛情	こころざし深し。（愛情が深い）
ありさま	名	様子	ありさまをかし。（様子がおもしろい）
ことわり	名	道理／当然	ことわりなり。（当然である）
いにしへ	名	昔	いにしへの人。（昔の人）
つとめて	名	早朝／翌朝	つとめて文を遣はす。（早朝に手紙を送る）

## 【練習問題10問（読解問題）】

### 第1問：竹取物語

出典：竹取物語（平安時代初期・作者未詳）

今は昔、竹取の翁といふ者ありけり。野山にまじりて竹を取りつつ、よろづのことに使ひけり。名をば、さぬきのみやつことなむいひける。その竹の中に、もと光る竹なむ一筋ありける。あやしがりて、寄りて見るに、筒の中光りたり。それを見れば、三寸ばかりなる人、いとうつくしうてゐたり。

問1 「あやしがりて」の意味として最も適切なものを選び。

- ① 疑わしく思って
- ② 不思議に思って
- ③ 醜く感じて
- ④ 馬鹿にして

問2 「いとうつくしうて」の現代語訳として最も適切なものを選び。

- ① とても気高く
- ② たいそう面白くて
- ③ とてもかわいらしい様子で
- ④ ひどく醜い様子で

### 第2問：枕草子

出典：枕草子（平安時代中期・清少納言）

春はあけぼの。やうやう白くなりゆく山ぎは、すこしあかりて、紫だちたる雲のほそくたなびきたる。夏は夜。月のころはさらなり、闇もなほ、蛍の多く飛びちがひたる。雨など降るもをかし。秋は夕暮れ。夕日のさして山の端いと近うなりたるに、鳥の寝どころへ行くとて、三つ四つ、二つ三つなど飛び急ぐさへあはれなり。

問1 「やうやう」の意味として正しいものを選び。

- ① やっと
- ② だんだん／次第に
- ③ 盛大に
- ④ 突然に

問2 「あはれなり」がここで表す心情として最も適切なものを選び。

- ① 悲しい
- ② 腹立たしい
- ③ しみじみとした風情を感じる
- ④ 退屈だ

### 第3問：源氏物語

出典：源氏物語（平安時代中期・紫式部）

いづれの御時にか、女御、更衣あまた候ひ給ひける中に、いとやむごとなき際にはあらぬが、すぐれて時めきたまふ、ありけり。はじめより我はと思ひ上がり給へる御方々、めざましきものにおとしめそねみ給ふ。同じほど、それより下臈の更衣たちは、まして安からず。

問1 「やむごとなき」の意味として最も適切なものを選び。

- ① 騒がしい
- ② 高貴な
- ③ 退屈な
- ④ 嫌な

問2 「時めきたまふ」とは誰がどうしたことか、最も近いものを選び。

- ① 女御が時を読み上げた
- ② 更衣が天皇の寵愛を受けて栄えた
- ③ 天皇が時を告げた
- ④ 侍女が時間を急いだ

#### 第4問：徒然草

出典：徒然草（鎌倉末期・吉田兼好）

つれづれなるままに、日暮らし、硯に向かひて、心にうつりゆくよしなしごとを、そこはかとなく書きつくれば、あやしうこそものぐるほしけれ。

問1 「つれづれなるまま」の意味として最も適切なものを選び。

- ① 連れ立っているまま
- ② 退屈で所在ない状態のまま
- ③ 穏やかなまま
- ④ 恐ろしいまま

問2 「あやしうこそものぐるほしけれ」の文末「けれ」の理由として正しいものを選び。

- ① 過去の助動詞
- ② 係り結び（係助詞「こそ」の結び）
- ③ 命令形
- ④ 否定形

#### 第5問：方丈記

出典：方丈記（鎌倉前期・鴨長明）

ゆく河の流れは絶えずして、しかももとの水にあらず。よどみに浮かぶうたかたは、かつ消えかつ結びて、久しくとどまりたるためしなし。世の中にある人とすみかと、またかくのごとし。

問1 「うたかた」の意味として最も適切なものを選び。

- ① 歌人
- ② 水の泡
- ③ うたた寝
- ④ 魚

問2 作者がこの文章で伝えたい主題として最も適切なものを選び。

- ① 自然の美しさ
- ② 無常観（移ろいやすさ）
- ③ 戦の悲惨さ
- ④ 貴族の権威

#### 第6問：伊勢物語

出典：伊勢物語・芥川（平安初期・作者未詳）

昔、男ありけり。女のえ得まじかりけるを、年を経てよばひわたりけるを、からうじて盗み出でて、いと暗きに来けり。芥川といふ河を率て行きければ、草の上におきたりける露を、「かれは何ぞ」となむ男に問ひける。

問1 「え得まじかりける」の「え～まじ」の意味として正しいものを選び。

- ① きっと得るだろう
- ② 得てはならない
- ③ 得ることができない
- ④ 得たいと思う

問2 「からうじて」の現代語訳として最も適切なものを選び。

- ① 全く
- ② やつとのこと
- ③ 急いで
- ④ 気軽に

### 第7問：平家物語

出典：平家物語・冒頭（鎌倉時代・作者未詳）

祇園精舎の鐘の声、諸行無常の響きあり。沙羅双樹の花の色、盛者必衰のことわりをあらはす。おごれる人も久しからず、ただ春の夜の夢のごとし。たけき者もつひには滅びぬ、ひとへに風の前の塵に同じ。

問1 「ことわり」の意味として最も適切なものを選び。

- ① 道理／真理
- ② 言葉
- ③ 規則
- ④ 祈り

問2 「おごれる人」の「おごれる」を文法的に正しく説明したものを選び。

- ① 四段動詞「おごる」の已然形
- ② 四段動詞「おごる」の已然形＋完了助動詞「り」の連体形
- ③ 下二段動詞「おごる」の連体形
- ④ 形容詞「おごれり」の連体形

### 第8問：大鏡

出典：大鏡（平安後期・作者未詳）

入道殿、大井川にて舟遊びをせさせ給ひけるに、漢詩の舟・管弦の舟・和歌の舟と分かたせ給ひて、その道に堪へたる人々を乗せさせ給ひしに、この大納言殿の参り給へるを、入道殿、「かの大納言、いづれの舟にか乗らるべき」とのたまはせければ、「和歌の舟に乗り侍らむ」とのたまひて、よみ給へるぞかし。

問1 「のたまはせければ」の敬語として正しいものを選び。

- ① 謙譲語
- ② 尊敬語の最高敬語
- ③ 丁寧語
- ④ 敬語ではない

問2 文中の「乗らるべき」の「るべき」の意味として最も適切なものを選び。

- ① 可能
- ② 完了
- ③ 受身
- ④ 推量・適当（～のがよい）

### 第9問：土佐日記

出典：土佐日記（平安中期・紀貫之）

男もすなる日記といふものを、女もしてみむとてするなり。その年の十二月の二十日あまり一日の日の戌の時に、門出す。そのよし、いささかにものに書きつく。

問1 「男もすなる」の「す」の活用形を選び。

- ① 未然形
- ② 連用形
- ③ 終止形
- ④ 已然形

問2 この文章の作者が冒頭でしている工夫として適切なものを選び。

- ① 女性のふりをして書く
- ② 宮中の出来事を記録する
- ③ 和歌だけで構成する
- ④ 海外の風物を伝える

### 第10問：紫式部日記

出典：紫式部日記（平安中期・紫式部）

秋のけはひ入り立つままに、土御門殿の有様、いはむかたなくをかし。池のわたりの梢ども、遣水のほとりの草むら、おのがじし色づきわたりつつ、おほかたの空も艶なるに、もよほされて、不断の御読経の声々、あはれまさりけり。

問1 「いはむかたなく」の意味として最も適切なものを選び。

- ① 話す相手がいない
- ② 言葉で表現できないほど
- ③ 誰にも知らせない
- ④ 話したくない

問2 「おのがじし」の意味として正しいものを選び。

- ① それぞれに／めいめい
- ② 全員一斉に
- ③ そのまま
- ④ 次第に

## 【解答】

## 第1問：竹取物語

## 問1 ② 不思議に思って

「あやし」は「不思議だ」の意。形容詞「あやし」の動詞化形「あやしがる」。

## 問2 ③ とてもかわいらしい様子で

「うつくし」は古語で「かわいらしい」の意。「いと」は「とても」。

## 第2問：枕草子

## 問1 ② だんだん／次第に

「やうやう」は「次第に」の意の重要古語。「やうやう白くなりゆく」＝「次第に白くなっていく」。

## 問2 ③ しみじみとした風情を感じる

「あはれなり」は「しみじみとした情趣を感じる」が中核の意。

## 第3問：源氏物語

## 問1 ② 高貴な

「やむごとなし」は「高貴だ／重要だ」の意の重要古語。

## 問2 ② 更衣が天皇の寵愛を受けて栄えた

「時めく」＝「時の人になる／寵愛される」。「たまふ」は尊敬の補助動詞。

## 第4問：徒然草

## 問1 ② 退屈で所在ない状態のまま

「つれづれなり」＝「退屈だ／所在ない」の意。徒然草の題名の由来。

## 問2 ② 係り結び（係助詞「こそ」の結び）

「こそ」を受けて文末は已然形「けれ」となる。係り結びの法則。

## 第5問：方丈記

## 問1 ② 水の泡

「うたかた」＝「水の泡」。方丈記の象徴的語。

## 問2 ② 無常観（移ろいやすさ）

鴨長明の方丈記は「無常」を主題とする随筆の代表作。

## 第6問：伊勢物語

## 問1 ③ 得ることができない

「え～（打消）」は不可能を表す呼応。「まじ」は打消推量・不可能。

## 問2 ② やっとのことで

「からうじて」＝「やっと／辛うじて」。連用形からの慣用語。

## 第7問：平家物語

## 問1 ① 道理／真理

「ことわり」＝「道理／当然のこと」。漢字「理」「事割」と表記される。

## 問2 ② 四段動詞「おごる」の已然形＋完了助動詞「り」の連体形

「おごれる」は「おごる（四段動詞已然形）＋り（存続助動詞連体形）」。「～している」を表す。

## 第8問：大鏡

## 問1 ② 尊敬語の最高敬語

「のたまふ」（おっしゃる・尊敬）＋「す」（尊敬補助動詞）で二重敬語＝最高敬語。

## 問2 ④ 推量・適当（～のがよい）

「べし」の連体形「べき」＝適当・推量。「乗るのがよいか」の意。「る」は尊敬の助動詞。

## 第9問：土佐日記

### 問1 ③ 終止形

「すなる」の「す」はサ変動詞「す」の終止形。「なり」は伝聞の助動詞で終止形接続。

### 問2 ① 女性のふりをして書く

紀貫之は男性だが、女性が書いたかのように装って執筆。仮名文字を使うため。

## 第10問：紫式部日記

### 問1 ② 言葉で表現できないほど

「言ふ方なし」＝「言いようがない／言葉にできない」。古文の決まり表現。

### 問2 ① それぞれに／めいめい

「おのがじし」＝「めいめいに／それぞれ」の意。「己が」＋「為為」。